

資料3 検証のための単元名・教材名

実施時期	単元名、教材名	指導時間	備考
昭和52年9月	情景を思い浮かべながら読もう(物語) 野ばら	8時間	第2回校内研究会
昭和52年10月	アンリー・デュナン		学習指導案は作らなかったが、研究的に扱い、事後の語句テストを実施した。
昭和52年11月	言葉について考えよう(言葉…論説文) 心と言葉	9時間	第3回校内研究会と重ね、6時目を本校の全職員に見てもらい、指導を受けた。
昭和52年12月	心のふれ合いを読もう(物語) トナカイを守る	10時間	西白河地区新任教員研修会と重なり、6時目を、西白河地区の新任の先生に見ていただいた。
昭和53年2月	読んで知識を深めよう(説明文) 心のはたらき	13時間	白河一小研究公開と重ね、8時目を県内外の先生がたに見ていただき、御指導を受けた。
昭和53年3月	もの見方や考え方に気をつけて読もう(紀行文) ケニアの旅		学習指導案は作らなかったが、研究的に扱い、事後の語句テストを実施した。

資料2 事後語句テストの設問とねらい

問1	次の言葉に読み仮名を正しくつけなさい。(読字…本設問には、その教材に初出の読み替えか、新出の熟語などをとり上げた。)4問
問2	次の言葉を漢字に直しなさい。(書字…本設問には、新出、既知の漢字を問わず、字形の似た漢字を含む熟語を意図した。(◎)味方と◎切というように。)4題で8問。
問3	次の言葉の対になる言葉を書きなさい。(反意語…学習の中では同義語と反意語双方を指導したが、ここでは反意語一本に絞ってみた。)6問
問4	次の漢字を使って、熟語又はことばを三つ書きなさい。(語彙、完全答でなくとも正しく書いてあるものについては正答とみとめ1点を与えた。)3題9問
問5	次の漢字と字形の似ている漢字を二つ書きなさい。(漢字の構成…完全答でなく、一つでも正しいものは正答とみとめ1点を与えた。)3題6問
問6	次の言葉を使って短文を作りなさい。(語句の意味、はたらき…)4問

② 理解を深め、語彙を殖し国語の力を高めようと考えた。語句帳を採用し、読解並びに語句学習に役立てる。昭和五十二年度一学期末に「語句帳」を使用し、漢字、語句学習に取り組んだ。これには、毎日学習

資料4 検証授業指導案

過程	指導内容・基本発問	児童の学習活動・反応
課題		
読み深め	○本時の読み取りは、文末表現に着目し、三つの段落にまとめると容易であることをとらえさせる。 〔ねむりと覚えること、ねむりと忘れることとの関係をとらえさせた後を受けて ○覚えることを学習した他の言葉で言います。 〔記憶⇔忘却という反意語及び文中の意味のつながりをとらえさせた ○忘れることは難しいので教えてください。「忘却(ぼうきやく)」というんだよ。	○「記憶」といいます。「記憶には、論理的な記憶と機械的記憶の二通りがあった。」 「記憶の反対に忘れることは何というのかかわらない。」 ○「忘却(ぼうきやく)」「わかった。だから、教科書には、忘れることは、古い記憶が、新しい記憶によって追いはられると書いてあったんだ。」 「忘却」の却は、「忘却」の却と同じで、しりぞくことなんだ。」
読み深め	○「ねむりと心のはたらきの関係で、A君からだされた「気になること」は、ねていても脳ははたらいている」を受けて ○「気になること」とは、どういうことですか。 「気になること」という語句を文中の語句あるいは既知の言葉に言い換えさせ、語感を大事にさせたい。	○「気になるとは、気にすることです。(笑)」 「気がかりなことだと思います。」 「意識していることだと思う。つまり、今日の学習で言えば、脳ははたらいていることです。」
まとめ		

◇ ここでは、反意語「記憶⇔忘却」と語句「気になること」の類縁関係(気)がかり、意識するなどに着目させ、徹底させることを意図した。限られた時間内に指導できる語句

③ 資料2のような内容のものを各単元の学習終了一週間後に実施した。内容は仮説に基づいて評価し易いように、六設問三十五題とした。
なお、検証のために取り扱った単元(教材)は資料3のとおりである。検証授業の一例(資料4参照)

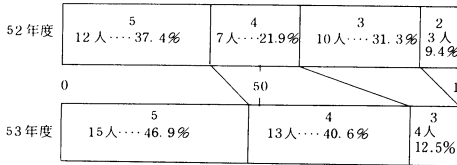
資料2のよう内容のものを各単元の学習終了一週間後に実施した。内容は仮説に基づいて評価し易いように、六設問三十五題とした。
なお、検証のために取り扱った単元(教材)は資料3のとおりである。検証授業の一例(資料4参照)

資料5 事後語句テスト 観点別学級平均正答率(%)

設問	教材	野ばら	アンリー・デュナン	心と言葉	トナカイを守る	心のはたらき	ケニアの旅	全体
1. 読字	4問	92	92	95	96	93	93	93
2. 書字	6問	66	79	82	72	72	87	76
3. 反意語を書く	6問	65	64	64	66	78	71	68
4. 語いを書く	9問	86	86	90	85	87	80	86
5. 漢字の構成	6問	80	97	85	96	84	90	89
6. 語句のいみ	4問	90	87	93	96	95	96	93
全体	35問	79	84	84	84	84	85	83

は、せいぜい五つである。従って、読解指導の中で取り扱う語句は、年間の見通しをもって選択した。これ

資料6 評価段階の比較



事前(S52.7実施)と事後(S53.6実施)の比較

資料7 領域ごとの学級平均正答率の比較(%)

領域	第1部 話すこと	第2部 読むこと	第3部 作ること	第4部 書くこと	全体
昭和52年7月	70.5	63	79	59.7	67.1
昭和53年6月	72.3	84.4	83.9	83.2	82.4
有効度指数	6.1	57.8	23.3	58.3	46.5

① (1) (五) 仮説の有効性の有無 検証授業後に行った語句テスト結果は資料5の通りである。書字力に関する内容が低迷しているが、他は期待した結果が得られた。児童個人の変容を見るために実施したワークテスト・期末語句テスト・標準学力テストは、発達段階に即し、同一の水準で問題が作成されているので、有効度判定の目安の一つにすることができた。

このような指導から、児童は語句学習の目を開き、興味をもち、学習への取り組みを広げてきた。研究のまとめ

らを平素の授業の中でたいせつに取り扱い、学習のしかたを身につけさせ、児童の自発性を促すことを重視した。